酒断つ勇気 後押し

欲求抑える新薬に保険適用

アルコール依存症の患者が、お酒を断つのを助ける新薬が国内で承認され、公的医療保険が使えるようになった。飲酒したいという欲求を抑える薬で、完全断酒率は5割弱と報告されている。専門医らは「薬はあくまで治療の補助で、中心は、断酒を動機づける心理、社会的な治療」と強調している。

24週間、5割弱に効果

5月8日夜、東京都国立市の集会所で、女性の断酒会「ひまわりの会」の例会があった。断酒会は、アルコール依存症の患者が順番に経験や教訓を語り、支え合っていく自助グループだ。

「おかしくなり始めたのは9年前ぐらいかな」。こう語る代表の女性(46)は5年前から通う。原因は心のよりどころだった祖母を病院で亡くしたことだった。「なぜ、引き取らなかったのか」と自分を責め、お酒にはまっていった。3カ月の入院の後、地域の断酒会に参加した。「ここには安心感がある。どうしたのと言ってくれる人がいる。だからお酒をやめられる」

アルコール依存症は、脳内で興奮に関わる神経と、それを抑える神経の働きのバランスが崩れていることが一因と考えられている。

これまで治療に使ってきた抗酒薬は、服薬後にお酒を飲むと、吐き気など激しい不快感をもよおさせて、断酒を促すものだった。

日本で新たに保険が使えるようになった断酒補助剤、レグテクト(アカンプロサートカルシウム)は、お酒を飲みたいという欲求を抑える効果があると考えられている。脳内の興奮に関連する神経の働きを抑え、バランスを回復する作用がある。

1日3回食後に服薬し、24週間続ける。重い腎障害や、薬の成分への過敏症がある人は使えない。アルコール依存症患者327人に対し行った臨床試験では、断酒の意志があり心理社会的治療を併用した患者に1日3回の服薬を24週間続けた結果、完全断酒率は47・2%で、比較のための偽薬の36・0%より明らかに高い効果があった。

並行して「心の治療」

ただ、レグテクトも万能ではない。国立病院機構久里浜医療センター(神奈川県横須賀市)の樋口進院長は「服薬のみという治療は避けるべきだ。心理社会的治療が重要だ」と話す。

心理社会的治療は、患者同士が集まって、病気について学んだり助言したりする集団精神療法や、過去の問題行動を振り返ることで断酒の行動を促す認知行動療法などが中心だ。断酒会など自助グループへの参加、家族教育も含まれる。

最近は復職準備をするリワークプログラムや専門デイケアを設ける病院も出てきた。飲酒による問題行動で壊れた家族関係を修復したり、復職をより円滑に行ったりするのが目的だ。

久里浜医療センターは昨年2月、原則3カ月のリワークプログラムを始めた。ミーティングやコミュニケーション法を学ぶ。

井之頭病院(東京都三鷹市)は昨年4月、3カ月の入院後に1年間通うアルコールデイケアを始めた。連続的な飲酒を防ぎ、生き方を変えて回復につなげるのが目的だ。アルコール症センター長の奈良圭之輔副院長は「断酒の3本柱は、専門医に診てもらうこと、抗酒薬の服用、自助グループに通うこと」と話している。

(岩崎賢一)

アルコール依存症の診断基準

過去1年以内に3項目以上が同時に1カ月以上続くか、繰り返し出る場合に疑いあり

- □ 飲酒への強い欲望や強迫感
- □ 節酒ができない
- □ 禁酒や減酒するとふるえや発汗などの離脱症状が出る
- □ 酩酊(めいてい)効果を得るために飲酒量が増えているか、同じ量でも酔えない
- □ 飲酒や回復に1日の大部分を費やす。飲酒以外の娯楽を無視
- □ 精神的、身体的な問題が悪化しているが、断酒しない

アルコール・薬物関連障害の診断・治療ガイドラインや厚労省資料などから

薬の違い

	レグテクト	従来の抗酒薬
効能・効果	脳など中枢神経に作用して、飲酒をしたいという気持ちが抑えられる	服用して飲酒すると、激しい吐き気などの不快感がある。この経験により飲酒を避けるように促す
使ってほしいけない患者	・成分に対して過敏症がある ・重い腎障害がある	・重い心障害、肝障害、腎障害がある ・重い呼吸器の病気がある ・アルコールを含む医薬品や化粧品、食品を使用中 ・妊婦や妊娠の可能性がある女性

The Asahi Shimbun

こだま

©Fujiko-Pro

縁の下

縁は縁側で部屋の外側にある板敷きの部分。縁の下の力持ちとは、縁側を下で支える柱のように、他人のために見えない所で努力や苦労をすることだよ。

1218